

# 天竜川ダム再編事業について

令和 2 年 5 月  
国土交通省 中部地方整備局  
浜松河川国道事務所

1. 事業の概要 .....	1
1) 事業の目的及び計画内容 .....	1
2) 事業の経緯 .....	3
2. 事業の進捗状況 .....	5
1) 全体工程 .....	5
2) 事業の進捗状況 .....	6
3. 今後の見通し .....	7

# 1. 事業の概要

## 1) 事業の目的及び計画内容

### (1) 事業の目的

■ 利水専用の佐久間ダムを有効活用し、新たに洪水調節機能を確保して、天竜川中下流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守る。

### (2) 計画内容

○ 位置(天竜川水系天竜川): (右岸)愛知県北設楽郡豊根村 (左岸)静岡県浜松市天竜区佐久間町

○ 計画内容

＜洪水調節＞

戦後最大規模相当の洪水に対して、佐久間ダム地点において最大約1,100m<sup>3</sup>/sの洪水調節を行う。

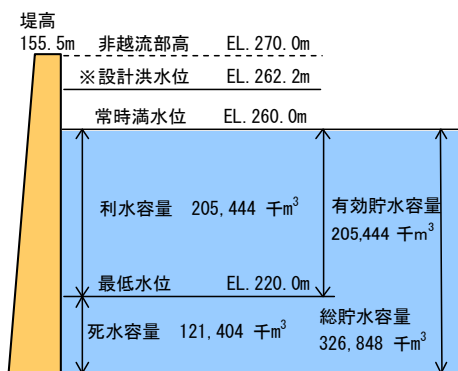
＜堆砂対策＞

恒久堆砂対策施設の整備により、ダム貯水池に流入する土砂をダム下流へ流下させ、洪水調節容量の恒久的な維持を図る。これにより土砂移動の連続性が確保される。

天竜川ダム再編前後のダムの諸元

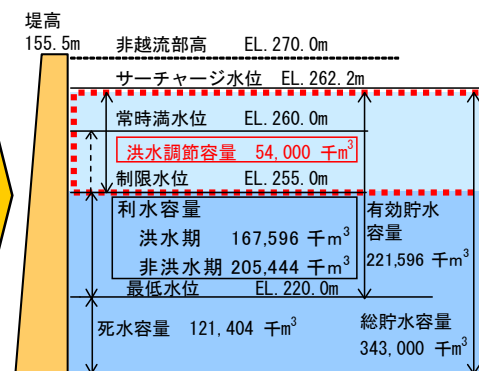
	佐久間ダム (再編前)	佐久間ダム (再編後) <sup>※1</sup>	差分 <sup>※2</sup>
形式	重力式 コンクリートダム	重力式 コンクリートダム	—
堤高	155.5m	155.5m	—
総貯水容量	32,685万m <sup>3</sup>	34,300万m <sup>3</sup>	1,615万m <sup>3</sup> 増
洪水調節容量	0m <sup>3</sup>	5,400万m <sup>3</sup>	5,400万m <sup>3</sup> 増
利水容量	20,544万m <sup>3</sup>	16,760万m <sup>3</sup>	3,785万m <sup>3</sup> 減

〈現在の貯水池容量配分図〉



※現構造令の名称では、サーチャージ水位に相当

〈再編後の貯水池容量配分図〉  
(洪水期:6/1~10/10)

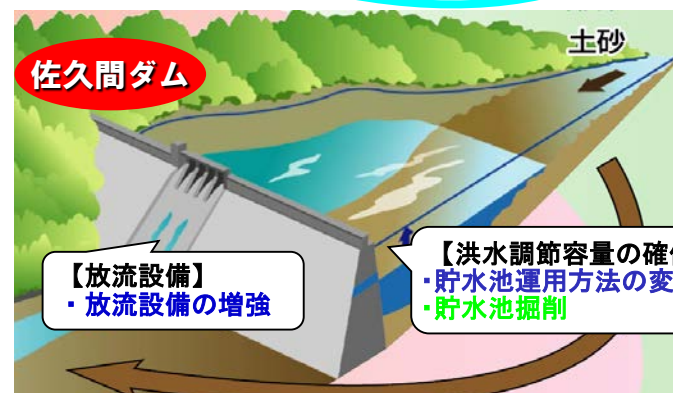
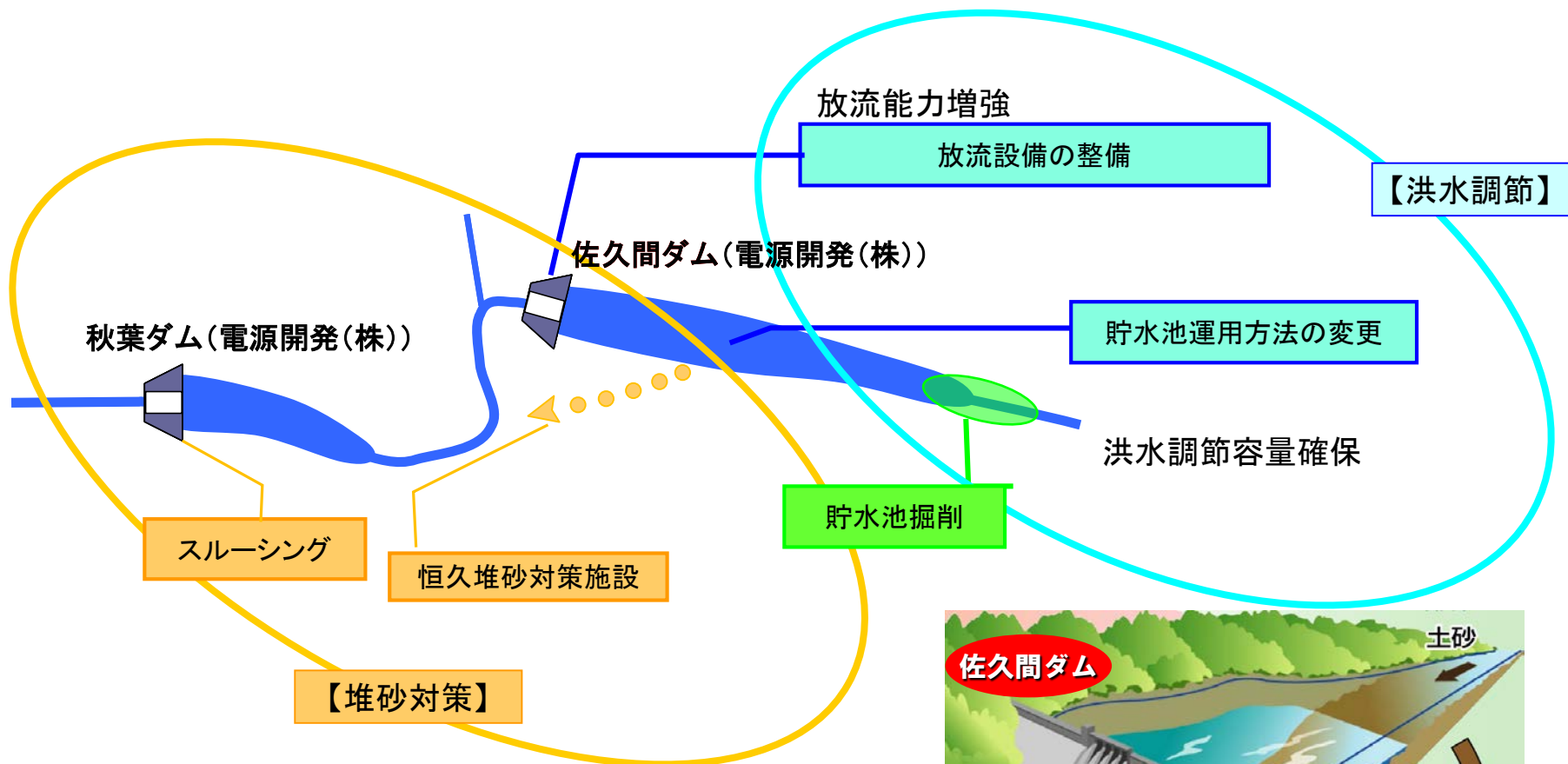


※1: 洪水期の容量を記載

※2: 差分は四捨五入の関係により合わない場合がある

# 1) 事業の目的及び計画内容

事業計画概要図



【放流設備】  
・放流設備の増強

【洪水調節容量の確保】  
・貯水池運用方法の変更  
・貯水池掘削

【恒久堆砂対策施設】  
・恒久堆砂対策施設の整備により洪水調節機能の維持を図る

天竜川ダム再編事業のイメージ

## 2) 事業の経緯

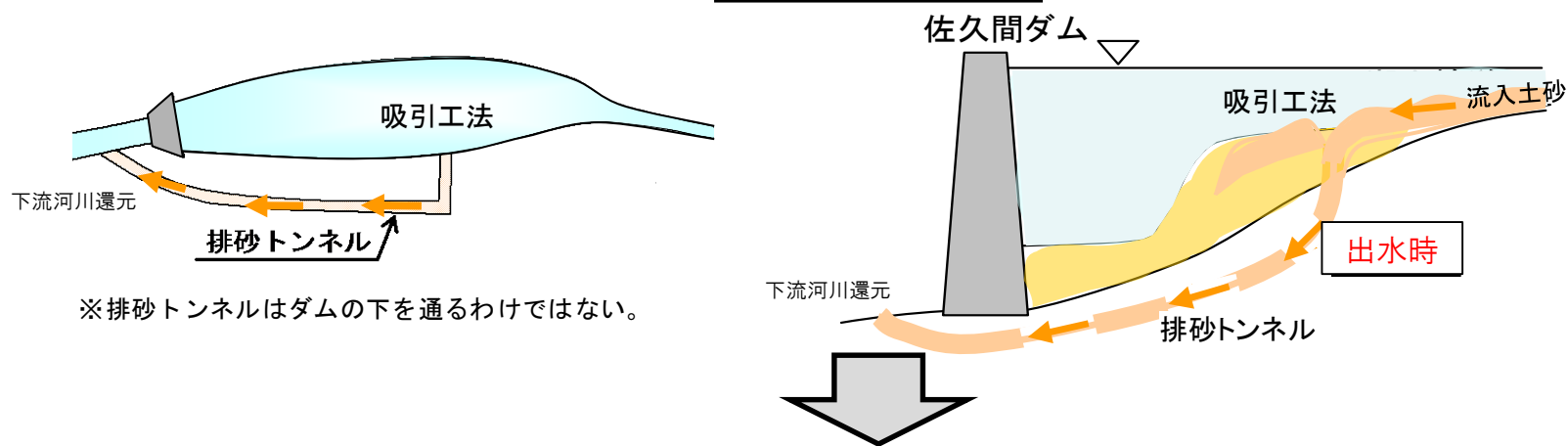
年	月	内 容
平成16年	4月	実施計画調査に着手
平成18年	7月	天竜川ダム再編事業環境検討委員会を設立
平成20年	3月	天竜川ダム再編事業環境検討委員会とりまとめ
	7月	天竜川水系河川整備基本方針を策定
平成21年	4月	建設事業に着手
	7月	天竜川水系河川整備計画を策定
平成24年	7月	事業評価監視委員会にて審議(事業継続) 対応方針:天竜川の治水安全度の向上のために、新たな洪水調節機能を確保することの重要性に鑑み、 効果の早期発現に向け、事業の進め方を含めた段階的な対応について検討するとともに、引き続き恒久堆 砂対策施設について検討を進めていくこととする。
平成25年	2月	天竜川ダム再編事業 排砂工法実証実験検討委員会(とりまとめ) 吸引方式とその他に考えられる排砂方法を比較検討した上で、佐久間ダムの排砂計画を策定する。
平成28年	2月	天竜川ダム再編事業 恒久堆砂対策工法検討委員会(第1回) (流入土砂の適切な処置が可能な工法について、専門家からの意見・助言を聴くことを目的として設立)
	8月	天竜川ダム再編事業 恒久堆砂対策工法検討委員会(第2回) (基本構成を確認するとともに、容量確保、浸水被害の防止等に必要な堆砂対策量を確認)
平成29年	3月	天竜川ダム再編事業 恒久堆砂対策工法検討委員会(第3回) (維持河床の検討、全体構成と概算費用の算出、コスト縮減に向けた技術開発について確認)
	11月	天竜川ダム再編事業 恒久堆砂対策工法検討委員会(第4回) (各工程におけるコスト縮減の検討、水理模型実験の結果、今後の模型実験計画について確認)
平成31年	1月	天竜川ダム再編事業 恒久堆砂対策工法検討委員会(第5回) (堆砂対策工法の基本構成を決定)
令和2年	2月	天竜川ダム再編事業 恒久堆砂対策工法検討委員会(第6回) (ストックヤード等の細部検討)

## 2) 事業の経緯

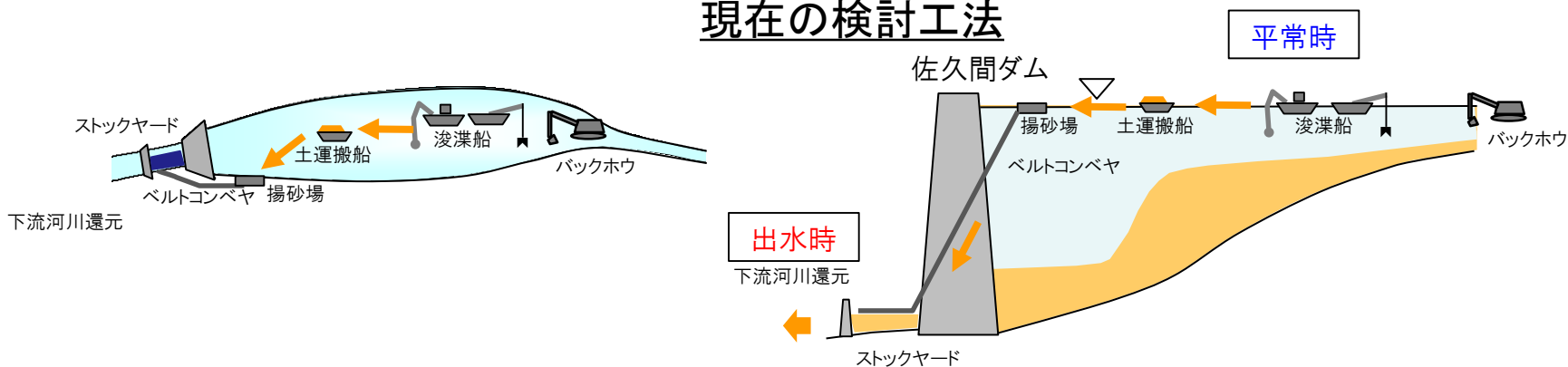
### 恒久堆砂対策工法の比較

項目	以前の検討工法	現在の検討工法
貯水池の土砂排除方法	洪水時 吸引工法(新技術)	平常時 掘削・浚渫→ストックヤード
下流河川還元方法	洪水時 排砂トンネルで還元	洪水時 集積土砂をゲート放流水で還元

#### 以前の検討工法



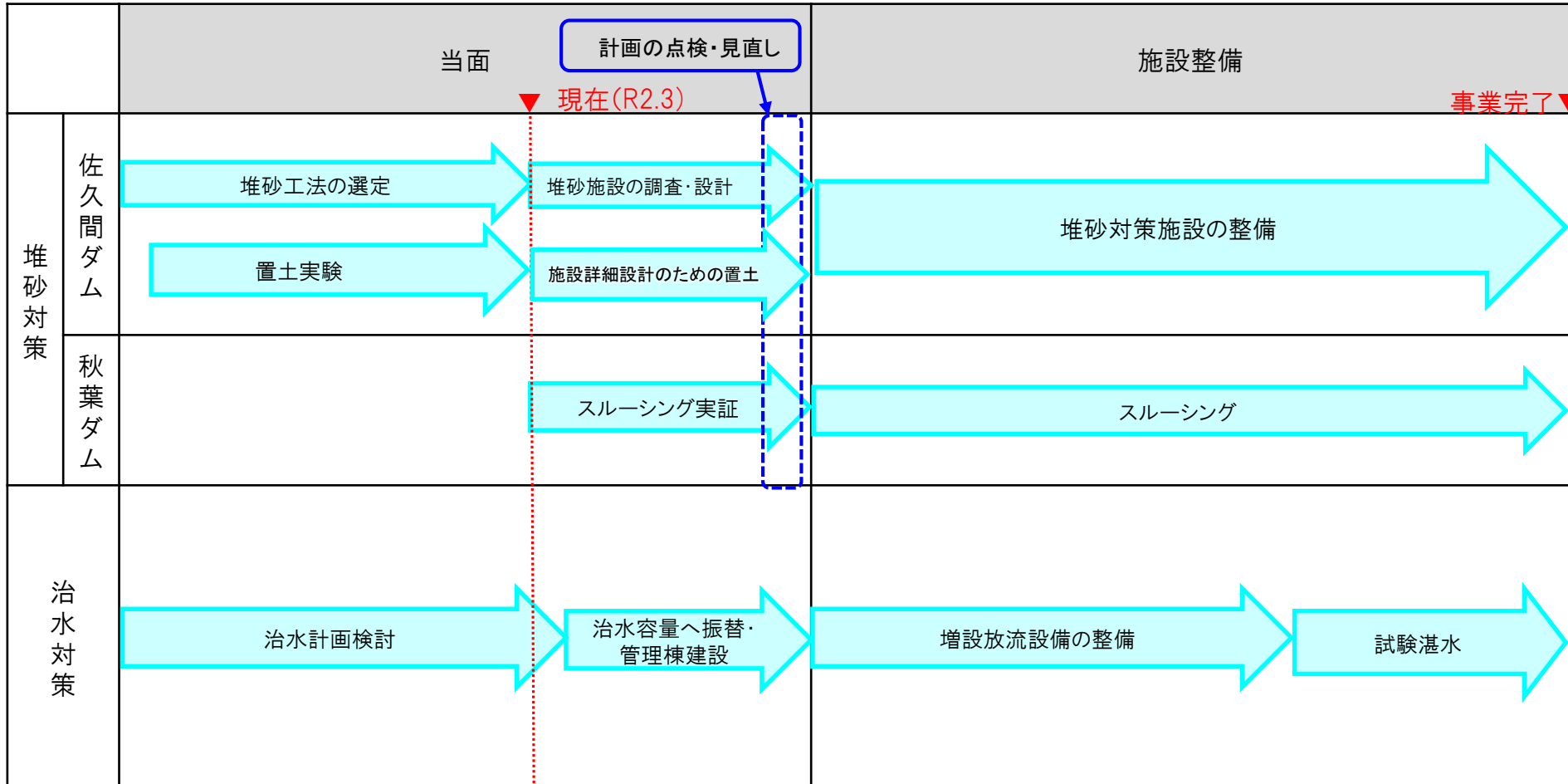
#### 現在の検討工法



## 2. 事業の進捗状況

### 1) 全体工程 (R2.3現在)

これまで、置土実験により土砂還元に伴う下流河川の影響等について調査を行ってきました。  
 今後、施設詳細設計や事業計画の点検を行いながら事業を進めていきます。



※今後の事業スケジュールについては、社会情勢の変化や事業展開に応じて変更の可能性があります。

## 2) 事業の進捗状況(R2.3現在)

恒久堆砂対策施設の検討や排砂による環境への影響を把握するための置土実験・モニタリング調査とともに、事業効果の早期発現に向けた検討を進めています。

- 事業完了年度 令和3年度
- 総事業費 790億円
- 予算執行状況
  - ・R元年度 約4.88億円
  - ・R元年度迄 約119億円 (進捗率約15%)
  - ・R2年度 約9.08億円



濁水調査



模型実験



置土実験



### 3. 今後の見通し

#### ■事業の必要性・重要性

- 以下を目的とする当該事業の必要性、重要性に変化はないと考えている。
  - ・洪水調節機能の強化
  - ・貯水池堆砂対策(洪水調節機能の恒久的な保全)

#### ■総事業費の見通し

- R2年度以降の残事業費は約671億円。
- 現在、計画の点検を実施しており、その結果を踏まえ、計画の見直しを行い改めて総事業費の見通しについて確認いただくものとする。

#### ■事業工期の見通し

- R2年度以降の残工期は2年。
- 以下の要因等により、現行の工期(～R3年度)では、事業目的を達成することは困難という見通しとなっている。
  - ・恒久堆砂対策の工法検討に時間を要したこと
  - ・計画の点検を実施していること
- 現在、計画の点検を実施しており、その結果を踏まえ、計画の見直しを行い改めて事業工期の見通しについて確認いただくものとする。